

月刊『カーサ ブルータス』  
\*Life Design Magazine  
casabrutus.com

暮らすように滞在するホテル、最新65軒。

# Casa

## BRUTUS®



## LIFESTYLE HOTEL

### ライフスタイルホテル 2020

1

2020 vol.238  
JANUARY  
¥990

おかえり、オーフラ! / 京の街を見下ろすパークハイアット京都 / 森の庭を楽しむアマン京都  
街歩きの拠点にしたい宿 / おいしい宿 / 建築家の宿 / 買えるホテル / クラシックホテルのロビー

**Q** テーマカラーはありますか?

R: あえい、日本の自然の色にインスピレーションを受けているカラーパレットが用いられています。日本の自然が一年を通して持つ色、というのでしょうか。

**Q** 隈研吾さんとのコラボレーションはどうでしたか?

R: このプロジェクト前に隈さんの建築を幾つか訪ねたこともあります。彼の仕事のファンでした。一緒に仕事をして一番素晴らしいのは、彼とそのチームがしっかり聞く耳を持ってプロジェクトに臨んでいたこと。彼ほどの知名度がある建築家を英語ではStarchitect、なんて言ったりしますが、彼は驚くほどオーブンさと謙虚

で仕事を進めていて、感銘を受けました。最終的にこのプロジェクトが世の中にお目見えした時、人々はこれまでの隈研吾建築とは違った印象を受けるかもしれません。隈さんのプロジェクトであることは搖るぎない事実ですが、その中に違う発想が育むことを許した、ユニークな物件となり得たと思います。

**Q** 特にこだわった素材はありますか?

R: 隈研吾さんが敷いた建築的パレットの中でデザインが求められました。そのパレットはとてもミニマルなもので、そして中でも重要な素材が木材でした。建築サイドにはたくさんの木の要素が使われています。加えて、コンクリート、メタルが素材の三つの主軸でした。その隈さんが設定したマテリアルに、私たちはレイヤーを足していくのです。最終的にはそのミニマルなパレット内に完結できるレイヤーをあてがうのが私たちの役割でした。例えばヒノキが隈さんのパレットにあったとしたら、私たちはそこにオーク、ウォルナット、レッドウッドを足しました。金属にしても同じです。最初にブロンズが建築的要素の重要な部分としてあつたので、私たちはコッパーを取り入れました。建築的なマテリアルを和らげる素材、テキスタイルも重要な役割を發揮します。和紙も柔らかいマテリアルの一つですね。

R: 真の意味での東と西のミックスだ、ということは強調できます。同時に、時代的にもミックスされたデザインの起用となっています。スタイルだけではなく、時空を超えて集められた人たち。一目見て、特定のビリオドや特定の場所を体现している、と言えないシチュエーションをあえて目指しています。アメリカの

**Q** 作家や作り手の  
橋渡し役なのですね。

R: そうですね。アーティストや工芸家とのコラボレーションは、コミュニーンが日常から得意としているところ。ホテル側がそういうコラボレーションの場を与えてくれることは、エースホテルのユニークな部分かもしれません。私たちはルールでがんじがらめにするのではなく、作家がその中で自由に表現できる枠組みを提案してあげる、という役割を担います。

**Q** 他のエースホテルと比べて、  
エースホテル京都が  
ユニークな点はありますか?

R: なによりも日本であったことが特別でした。日本は独自の文化を持った他にない場所です。文化的なコネクションが、世界のどの場所とも違う方で存在しているように思えます。柚木さんとの最初のミーティングは4年前だったと思います。それくらい長くかかるものなのです。そのぶん、出来上がったものを目にした時の充足感といったら、ひとしおです。

**Q** みんな期待に  
胸を膨らませていると思います。

R: 今回の既存の建物は、ある意味日本ではない建物でした。レンガタイル仕上げの大正時代の建築です。なので、そもそも非合理的からのスタートでした。内装には大幅に手を加えています。でも建物自体がいい状態で維持保存されていたのと、隈研吾さんが手がけた新館との寄り添い具合がとても美しい。穏やかな、思慮深い融合を、隈さんは実現しています。

京都 | 烏丸御池

エースホテル京都

Ace Hotel Kyoto  
Karsumaoike, Kyoto

2020年春オープン予定。建築デザイン監修:隈研吾建築都市設計事務所、内装デザイン:コミュニーン。複数施設「新風館」内のホテル。●京都府京都市中京区寺小路通東洞院西入車屋町245-2。https://www.acehotel.com/kyoto/

下に敷いた写真はロマンがエースホテル京都のために作製したイメージボード。生地やタイル、紙に、柚木沙弥郎の切り絵など。これらがどのように空間に落とし込まれているか、楽しみだ。

**Q** コミューンとしての見所は?

R: 一番感じてほしいな、と思うのは、ユニークな東と西の融合を体験してもらえば、と思います。東がどこから始まって西がどこから始まるのか、もしかしたらわからないかもしれない。そんな混じりあった部分を楽しんでもらえたらな、と思います。隈研吾さん、エースホテル、コミュニーン。その3つが合わさったこと 자체も、東と西の一形態、であるわけです。空間から家具のディテールまで、見ていて東なのか、西なのか、その領域がわからなくなるような感覚に襲われてほしい。それが達成できたら、私たちにとってこんなにエキサイティングなことはありません。

**Q** 家具は誰の作品を入れましたか?

R: 家具もありますし、ヨーロッパや、日本の家具もあります。でもそれらが同じ場所で共存できるのは、何らかの形で日本と関係しているからです。その日本とのコネクションが、エースホテル京都の内装デザインを一つの世界観としてまとめあげてくれています。ゲストは実際に見て(その混ざり具合に)驚くかもしれませんね。

ACE HOTEL KOTO.



**Q** 柚木さんとの作業の中で、  
印象的だったことは?

R: 柚木さんにこのプロジェクトに参加してもらいたいと思った理由は、彼の楽観的で遊び心に満ちた作風に惹かれたからです。今この時代を生きる私たちに必要な気質だと思います。柚木さんは日本で起こったことも、アメリカで起こったことも、にして、生きてきた人です。それでも作品を通して彼の前向きな気持ちが、ひしひしと伝わってくる。彼の作品はどれもまことにユニークだと思います。「動き」ですね。動きやその時の感覚を直感的に、即座に形にしたものを作ってくれます。それでアイデアのよりピュアな表現法に思えます。彼の年代で、制作にその機敏さや瞬発力があるというのが、柚木さんの素晴らしいところ。そこにはハッとした感覚があります。

**Q** 内装デザインのコンセプトを教えてください。

R: 「東と西の融合／出会い (East meets West)」という考え方を基軸にこのプロジェクトに取り組みました。まず、デザインの歴史を通して、これまでどのように東と西が会ってきたかを考察しました。フランク・ロイド・ライトが日本で手がけた仕事、日本で制作の場を持つイサム・ノグチ、またシャルロット・ペリアンの戦時中の日本での仕事など。そういうデザインにおける歴史的な文化交流が、エースホテル京都のインテリアのインスピレーションとなっています。そして日本とアメリカのアーティ

スト、工芸家、職人たちを厳選し、それがどのように融合していくかを見届けました。京都は伝統的にアーツ＆クラフト（美術工芸）の中心地であったと理解しているので、地理的にも完璧な融合でした。今プロジェクトでは従来の「アートプログラム」が「アーツ＆クラフトプログラム」に名を変えています。それくらいクラフトの要素に注目して取り組みました。私たちにとってアートとクラフトにはヒエラルキーは存在しません。同時に価値のあるもの、と見ています。

**Q** ヴィンテージの家具も  
使っていますか?

R: ほぼありません。ヴィンテージに見えるものがあるとしたら、デザインの着想がそれなりに由来しているのです。エースホテル京都にあるものはすべて私たちが再生産したものになっています。なので、ヴィンテージ感覚のする現代デザイン、ということになりますね。

**Q** エースホテル京都プロジェクトでの  
コミュニーンの役割は?

R: インテリアデザインが大枠ですが、アトリエ・エースと一緒にコンセプト部分と、全体的なデザインにも携わっています。

**Q** ロマンにとって、京都の印象は?

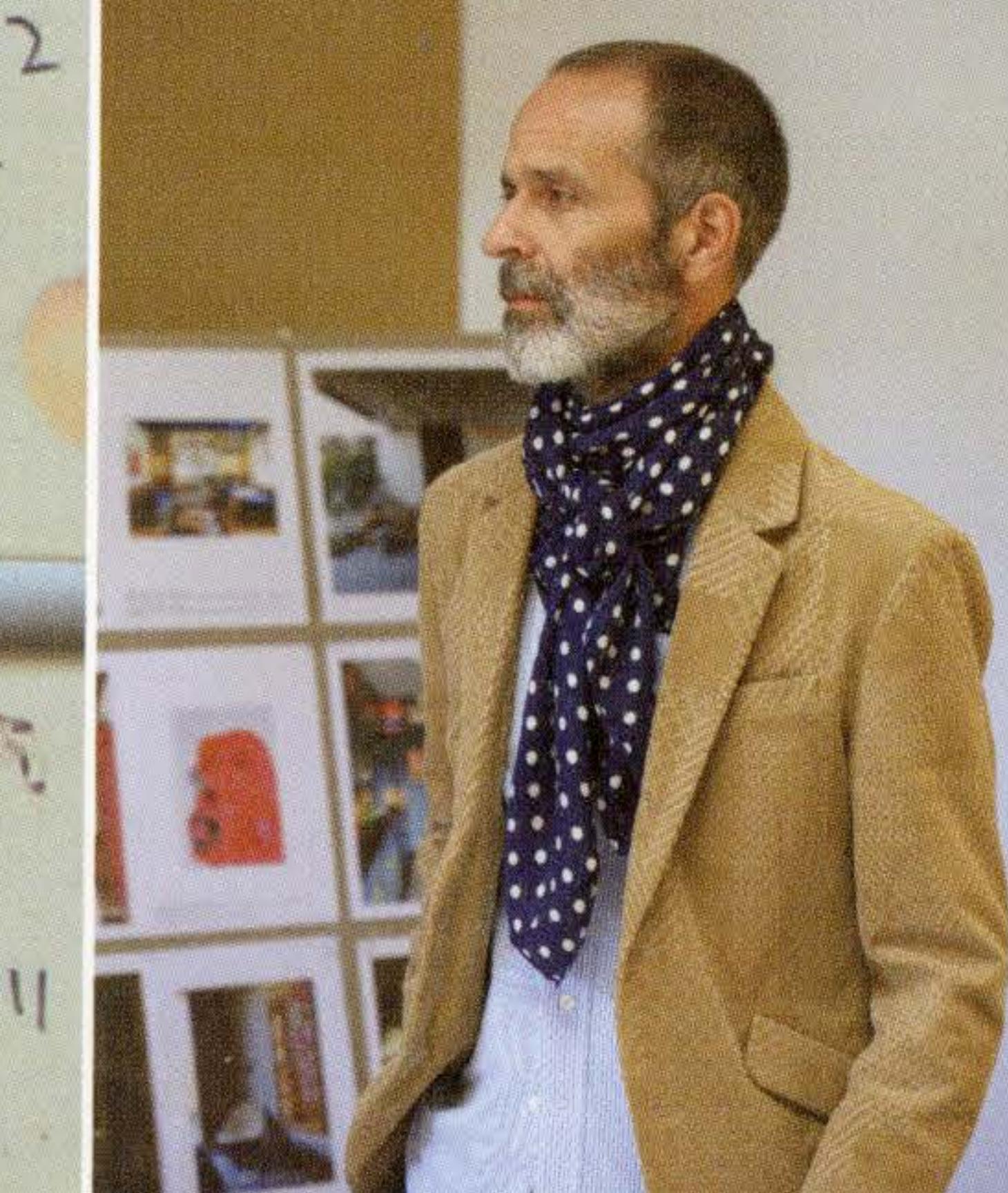
R: 私にとっての京都は、いつだって上質のクラフツマンシップに触れる場所です。京都で作られたものの工芸技術の高さに、いつも心を打たれています。なので、金網の職人、和紙職人、木工職人、そして陶工など、京都の工芸家たちとの共同作業は本当に夢のようでした。その一方で、私たちが奨励したのは、その伝統の枠を超えてみること。そうするととても面白い結果が出来ました。作る、という行為においては、皆が忠実にその伝統を守っていたんです。アイデアは枠を超えているかもしれません。が、出来上がってきたものの作られ方はどれも伝統に則ったものでした。そのような結果が出たのも、京都ならではな気がします。

**エースホテル京都、**  
**いよいよ2020年春にオープン。**

ライフスタイルホテルの代表ともいえるエースホテル。2020年春にいよいよ京都に誕生します! 内装デザインを担当したコミュニーンのロマンにどんな感じか聞いてみました。

photo & text Aya Muto editor Kazumi Yamamoto

隈研吾さんのコラボは  
エキサイティングでした。



ROMAN ALONSO

ロマン・アロンソ LAのデザイン集団(COMMUNE)のデザイナー。店舗や住宅の内装からグラフィックデザインまで多岐にわたって活躍。バーミスプリングスやロサンゼルス、シカゴのエースホテルも彼らが内装を担当した。